(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2017-12531
(P2017-12531A)
(43)公開日　平成29年1月19日(2017.1.19)

(51)Int.Cl.		F I		テーマコード（参考）
A46B 9/04	(2006.01)	A46B	9/04	3B202

審査請求 未請求　請求項の数 1　ＯＬ　（全 5 頁）

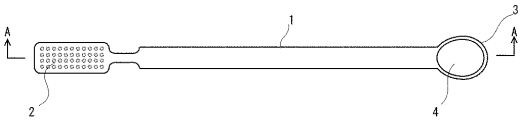
(21)出願番号　特願2015-133276 (P2015-133276)
(22)出願日　平成27年7月2日 (2015.7.2)

(71)出願人　000229162
日本ソリッド株式会社
東京都港区新橋２丁目１６番１号　ニュー新橋ビル５階
(72)発明者　波多野　倫
東京都世田谷区東玉川２丁目３３番１９号

Ｆターム(参考)　3B202 AA02 AA06 AB02 AB30 BA15 EA01 EA03

(54)【発明の名称】舌クリーナ付歯ブラシ

(57)【要約】
【課題】
舌クリーナと歯ブラシを併設した多機能衛生器具を提供することにある。
【解決手段】
柄の一端に毛を植毛したブラシ部を設け、他端に薄板体によって円形状に形成した舌クリーナ部を設けた舌クリーナ付歯ブラシ。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
柄の一端に毛を植毛したブラシ部を設け、他端に薄板体によって円形状に形成した舌クリーナ部を設けたことを特徴とする舌クリーナ付歯ブラシ。

【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、口腔用衛生器具に関し、さらに詳しくは舌クリーナ付歯ブラシに関する。
【背景技術】
【０００２】
近年の研究によれば、舌の表面にできる白い汚れ「舌苔」が多い人は、口や喉のがんの原因になるとされる化合物「アセトアルデヒド」の口中濃度が高いことが判った。舌苔は、食べかすや、口の中からはがれ落ちた粘膜細胞、細菌がたまったものであり、特に口の中が乾燥しやすいと付着しやすく、口臭の原因ともされていた。最近の研究によれば、健康な男女６５人を対象に実施したところ、舌苔が舌全体の３分の２以上付着した人の呼吸中のアセトアルデヒド濃度は、付着が３分の１以下の人の約３倍だったことが判ったとされている。この舌苔を取り除くと濃度が下がることも確認されており、舌をきれいにすることが、がんの予防につながる可能性があることが示唆されている（非特許文献1）。
【０００３】
従来、舌苔を除去する舌クリーナとしては、柄の先端部を二股状に分枝し、両方の枝部の各先端間に多数の螺旋状に設けたブラシを掛け渡したもの（特許文献1）、または柄とその先端に設けられたクリーナ部とで構成され、クリーナ部には抗菌剤を含有する軟質材によって形成された舌掻き部を備えると共に、該軟質材の硬度が７０～８５である舌クリーナ（特許文献２）が知られている。また歯ブラシと併用できるものとしては、細長い部品であって、その部分の長さ方向に伸びる掻き取りエッジを有する前記細長い部品と、上記部品の横方向に延びる一対の平行リブと、前記部品の端部にある円形陥没部とを備え、前記陥没部の周辺の少なくとも一部は、湾曲した内側側面により、更に、湾曲した外側側面により制限されており、湾曲した側面は、湾曲した舌クリーニングエッジを提供するように交差している、舌クリーナ（特許文献３）が知られている。
【先行技術文献】
【非特許文献】
【０００４】
【非特許文献１】日本経済新聞４２頁（２０１５年3月２９日発行）
【特許文献】
【０００５】
【特許文献１】実公平１－３１１１５号公報
【特許文献２】特開平９－２９４６８８号公報
【特許文献３】特表２００２－５２７１２２号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００６】
しかしながら、従来の舌クリーナは充分に舌苔が除去されなかったり、除去した舌苔がクリーナから食み出してしまい、舌の両サイドに漏れてしまい、口を濯いでもなかなか洗い流せない欠点があった。
そこで本発明者は、舌苔を充分に掻き取り、この掻き取った舌苔を口腔内に分散させることなく、口腔外に排出できる舌クリーナについて種々研究を重ねた結果本発明を完成するに至った。
【課題を解決するための手段】
【０００７】

すなわち、本発明は、柄の一端に毛を植毛してブラシ部を設け、他端に薄板体を円形状に形成した舌クリーナ部を有する舌クリーナ付歯ブラシである。

【発明の効果】

【０００８】

本発明の舌クリーナ付歯ブラシは、舌クリーナ部で舌苔を掻き取り、その掻き取った舌苔を口腔内に分散させることなく、円形状の舌クリーナ部内に納めることができるので、舌苔を除去した後簡単に口を濯ぐことによって、口腔内を清潔に保つことができる。

また特に分割タイプの舌クリーナ付歯ブラシにおいては、少なくとも舌クリーナ部側の柄の部分を可撓性素材で構成すると、歯をブラシで磨くときに、磨く力を軽減させることができるので歯グキを痛めることもない。

【図面の簡単な説明】

【０００９】

【図１】本発明の舌クリーナ付歯ブラシの平面図である。

【図２】本発明の舌クリーナ部の一態様を示す一部拡大平面図

【図３】図１のＡ－Ａ′部の側断面図である。

【図４】分離したブラシ部の平面図である。

【図５】分離したブラシ部の側面図

【図６】分離した舌クリーナ部の平面図である。

【図７】分離した舌クリーナ部の側面図である。

【発明を実施するための形態】

【００１０】

次に本発明を図面を参照しながら説明するが、本発明は以下の説明のみに限定されるものではない。

図1は、本発明の舌クリーナ付歯ブラシの平面図である。

柄１の一端部は内部に穴を有し、歯ブラシ部の一群を構成する平坦なヘッド部と成っており、そこに植毛し歯ブラシ部２を構成している。一方柄１の他端部は薄板体によって円形状にした舌クリーナ部３によって構成されている。円形状の舌クリーナ部３の内側は中空部４になっており、この部分に掻き取った舌苔を溜めることができる。円形状の舌クリーナ部３の形状も図１に示す逆卵子型の外、図２に示すようにウエーブ状の円形型形状５とすることによって異なる角度で舌苔を掻き取りができる上、掻き取られた舌苔を凹部６に溜めることができる。

【００１１】

本発明の舌クリーナ付歯ブラシは毛の部分を除き一体成型によって製作することができるが、図４に示すように柄１部を分離・結合するようにすることによって舌クリーナ部の素材を軟らかい例えばポリエステルエラストマー、シリコンゴム、軟質性プラスチック等の可撓性素材で製作することもできる。この場合ブラシ部の柄１の長さより、舌クリーナ部の柄１の長さを長くすることが好ましい。具体的にはブラシ部の柄１の長さ：舌クリーナ部の柄の長さの比を１：３好ましくは１：４程度にすることが最適である。このように可撓性素材を用いることによって舌を傷つけることなく舌苔を掻き取ることができる。

【００１２】

柄１部を分離・結合するためには、図５および図６に示すようにブラシ部２の柄１の先端部に嵌合口７を設け、嵌合口７の一面にスリット状の切り欠き部８を設け、さらに切り欠け部８の適宜の位置に後述する舌クリーナ部に有する突起部を固定するための凹み部９を設ける。

一方舌クリーナの柄１の先端部にブラシ部の嵌合口７に嵌合する形状の突出部１０を設け、かつ突出部１０に、前記凹み部９に嵌合する突起１１をもうける。

前記ブラシ部２の柄１と舌クリーナ部３の柄１とを結合させるためには、舌クリーナ部に有する突出部１０をブラシ部の嵌合口７に挿入する。突出部１０を挿入することによって突出部１０に設けられた突起１１が切り欠き部８に沿って挿入され凹み部９に嵌って固定される。

このようにすることによって、ブラシ部と舌クリーナ部とを結合して舌クリーナ付歯ブラシを構成することができる。

【００１３】

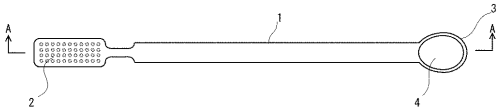
本発明の分離可能な舌クリーナ付歯ブラシの場合、ブラシ柄１部を硬質樹脂で製作し、舌クリーナ部の柄１部を可撓性素材で製作し、かつブラシ部の柄１より舌クリーナ部の柄１の長さを長くすることによって、仮に強い力で歯ブラシを使用しても舌クリーナ部の柄１が湾曲するため歯への圧力を軽減することができ、歯ぐきに傷をつけることなく保護することができる。

【符号の説明】

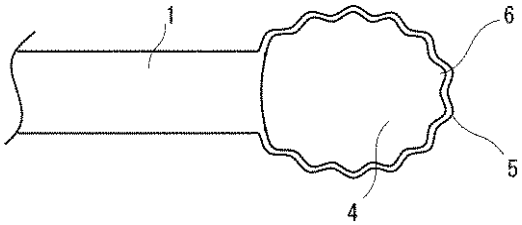
【００１４】

１・・・・・柄
２・・・・ブラシ部
３・・・・舌クリーナ部
４・・・・中空板

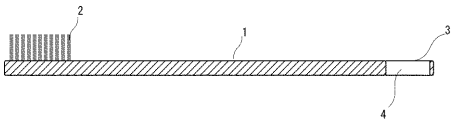
【図１】



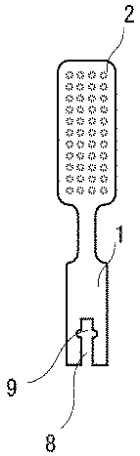
【図２】



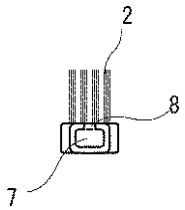
【図３】



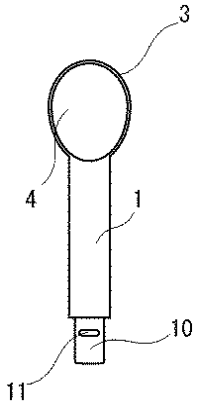
【図４】



【図５】



【図６】



【図７】

